

長期化するコロナ感染

コロナ危機が起きて世界の株式市場で暴落が起きたのは3月のことだった。それから7カ月が過ぎた。危機の初期に比べて何が変わってきたのだろうか。

よい話と悪い話がある。まずよい話だが、金融危機になっといういいことだ。3月には金融市場は大きく崩れたが、各国の中央銀行や政府による大規模な対応策によってなんとか持ち直した。これだけ実体経済は悪いのに株価は高値を維持している。株式市場は政策によってなんとか持ちこたえている状況だ。金融危機になっといういい



伊藤元重の

エコノウオッチ

ということとは本当によいことだ。19世紀以来の大きな金融危機は全て、1人当たりのGDP（国内総生産）が元の水準に戻るまでに7年近くかかったという。ちなみに1998年の日本の金融危機の時には、日本のGDPが元の水準に戻るのに20年かかった。2008年のリーマン・ショックの後も世界経済の回復には時間がかかった。金融危機になっといういいことは、経済の早い段階での回復に期待を残すものだ。ただ、悪い話もある。それは、当初に期待されていたよりも、ウィルス感染が

金融危機回避へ万全に

長引いていることだ。第二波、第三波の懸念も大きい。この結果、当初期待されていたようなV字回復は難しくそうだ。感染長期化への対応が企業経営にも求められる。当面金融危機が起きることが避けられるとすれば、経済の回復スピードはウィルス感染をどれだけ早く抑え込めることができるかに依存することになる。ただ、感染抑制の効果が出るのに時間がかかるようだと、金融問題が再び頭をもたげることになる。

多くの企業が銀行から多めに資金を調達している。社債やCPを多めに発行している企業も多い。劣後債のような手段を駆使して資金を集めている企業もある。こうした手段でなんとかその場をしのいでいる企業も少なくない。おかげでこれだけ厳しい経済状況が続くのに、倒産件数は懸念していたほど増えず、銀行の不良債権が膨らんでいるという話も聞かない。

しかし不況が長期化すれば、そもそも言っていられない。金融危機が起きていないことが景気の早期回復に期待を持たせる面があると言ったが、感染の影響が長期化すれば金融市場への負荷がより大きくなるのだ。日銀や公的金融機関などは大胆な資金提供を続けるだろうが、不況が長期化すれば全ての企業を支えることは難しい。市中銀行にとっても、危機の初期段階ではほぼ全ての顧客の融資要請を受けたかもしれないが、危機が長期化すれば顧客の経営状況によって対応を変えていかななくてはならなくなる。破綻する企業の数も増えてくるだろう。そうした中で株式市場が安定的に推移し、社債や借り入れなどを通じて企業に安定的に資金が届くことの保証はない。金融危機は起きていないと述べたが、ウィルス感染の影響が長引いている今、金融危機を起さないような万全の対応が求められる。そして企業にとっても、コロナ危機との長期戦に備えて万全の資金確保が求められるのだ。（学習院大学国際社会科学部教授）